

関西学院大学 研究成果報告

2020年 5月 27日

関西学院大学 学長殿

所属： 経済学部
職名： 教授
氏名： 森田由利子

以下のとおり、報告いたします。

研究制度	<input checked="" type="checkbox"/> 特別研究期間 <input type="checkbox"/> 自由研究期間 <input type="checkbox"/> 大学共同研究 <input type="checkbox"/> 個人特別研究費 <input type="checkbox"/> 博士研究員 ※国際共同研究交通費補助については別様式にて作成してください。
研究課題	「ライフ・ライティング」研究
研究実施場所	研究室および自宅（研究上必要な国内外の出張を含む）
研究期間	2019年4月1日～2020年3月31日（12ヶ月）

◆ 研究成果概要 （2,500字程度）

上記研究課題に即して実施したことを具体的に記述してください。

博士論文において、英国作家ヴァージニア・ウルフと「ライフ・ライティング」との関わりについて検証し、その内容を『*Invisible Presences*』: *Virginia Woolf and Life-Writing*として2003年に公刊したが、それ以降、「ライフ・ライティング」というジャンルを、独自に広義に捉えて研究を継続している。具体的には、従来の伝記、自伝、書簡、日記、伝記的/自伝的小説といったテキストに加え、絵画や写真、さらには、絵画の蒐集行為や個人コレクション、個人の蔵書、また、歴史的価値を有する「建築物や邸宅」などをも「ライフ・ライティング」の一形態であると見なしてきた。現在、それらの成果を体系的にまとめ、新たな研究書として出版する方向で研究を進めている。また、近年、創業者の個人コレクションを基としていることが多く、日本独自の運営方式を呈する「企業美術館」について関心を深めており、その存在や運営の有り様を「ライフ・ライティング」（個人史、家族史）という観点から考察することも目指している。

上記を研究課題とし、特別研究期間を取得した2019年度は、まず、ヴァージニア・ウルフや「ライフ・ライティング」についての知見をより深めるため、国内外の伝記、自伝、書簡、日記、伝記的/自伝的小説を渉猟した。その結果、今後の新たな研究課題を絞り込むことができ、特別研究期間の成果をさらに発展させるため、2020年度は、カズオ・イシグロの小説『日の名残り』（*The Remains of the Day*, 1989）、そして、ヴァージニア・ウルフの姉、ヴァネッサ・ベルによる「ブックデザイン」についての文献研究に着手することを計画

している。

また、テキスト分析や文献研究に加え、可能な限りのフィールドワークを組み込み、多くの美術館や博物館（三菱一号館美術館、京都国立博物館など）へ足を運んで研究上有益な資料を入手することができた。中でも特筆すべきは、昨年3月に公刊した研究ノート「約束の書物が語ること：『ハロルド・フレデリック・ウッズウォース博士追憶集』」の考察を加筆修正するために、多可町和紙博物館（壽岳文庫）に赴き、資料、および、情報収集を行ったことである。1952年に刊行された私家本、『ハロルド・フレデリック・ウッズウォース博士追憶集』（*In Memoriam Harold Frederick Woodsworth D.D.*）は、限定350部のみ創られ、カナダに70部が送られている。多可町和紙博物館（壽岳文庫）にて、著者である壽岳文章が手元に残した一冊（シリアル番号 #3）を実際に手に取ることができ、また、壽岳文庫の所蔵リストなども確認することができた。さらに、多可町和紙博物館で得た情報を基に、向日市文化資料館にて、壽岳文章が私家本（向日庵本）の装幀に用いた様々な葛布の端材を確認し、『ハロルド・フレデリック・ウッズウォース博士追憶集』の表紙に用いられたと思われる（外村吉之介が用立てた）葛布を特定することができた。

こういった国内でのフィールドワークと同時進行で、時間をかけてカナダ（Victoria）の研究協力者と連絡を密に取り、『ハロルド・フレデリック・ウッズウォース博士追憶集』についての得難い発見や確認が得られたことも極めて有意義であった。これらの研究成果を論文としてまとめ、状況を見て、できるだけ早い時期に国際学会で発表、あるいは、海外の学会誌に投稿したいと考えている。

さらに、国内で開催された国際学会（MSIA: アジア・モダニズム研究ネットワーク主催の第2回国際学会や第4回日韓国際ヴァージニア・ウルフ学会）、研究課題に関連する講演会（大山崎山荘美術館にて行われた鈴木禎宏氏による「バーナード・リーチ 人と作品」やNPO法人向日庵主催、杉山享司氏による「京都時代の柳宗悦 寿岳文章との交流を中心に」）に参加し、質疑応答などを通して情報を得ることに努めた。

加えて、今回の特別研究期間中の主たる研究成果は、7月14日から19日まで英国ケンブリッジ大学（Wolfson College）にて行われたサマーセミナー（Virginia Woolf's Gardens）に参加したことである。一週間に渡って、多くの研究者（Trudi Tate, Alison Hennegan, Karina Jakubowicz, Suzanne Raittなど）から「ヴァージニア・ウルフと庭」というテーマに即した発表を聞くことができ、セミナー参加者と意見交換も大に行った。また、このセミナー参加を通して、Karina Jakubowicz の著書（*Garsington Manor and the Bloomsbury*, 2016）の翻訳に着手するという新たな研究課題も得ることができた。さらに、ケンブリッジ滞在中、ケンブリッジ大学の様々なカレッジの庭を訪れ、また、フィッツウィリアム博物館において、ヴァージニア・ウルフの手書き原稿を見るなど、貴重な経験を得たが、最も研究上意義深かったのは、ヴァージニア・ウルフの伝記的事実に基づいた小説、『わが妹、ヴァージニア— 芸術に生きた姉妹』（*Vanessa and Virginia*, 2009）の著者、セントアンドリュース大学教授のスーザン・セラーズ氏とロビンソン・カレッジにて会い、時間をかけて意見交換ができたことである。これにより、ウルフ研究の現状やオックスフォード大学における「ライフ・ライティング研究」に関する情報を得ることができ、また、現在取り組んでいる研究テーマに対して極めて有益なアイデアを得た。こういったケンブリッジ大学のセミナーで得た着想を基に、まずは、「記憶の庭と戦時の庭—ヴァージニア・ウルフの『幕間』を中心に」というタイトルで論文をまとめ、2020年12月刊行予定の研究書の分担執筆として公刊する予定である。

以上

提出期限：研究期間終了後2ヶ月以内

※個人特別研究費：研究費支給年度終了後2ヶ月以内 博士研究員：期間終了まで

提出先：研究推進社会連携機構（NUC）

※特別研究期間、自由研究期間の報告は所属長、博士研究員は研究科委員長を経て提出してください。

◆研究成果概要は、大学ホームページにて公開します。研究遂行上大学ホームページでの公開に支障がある場合は研究推進社会連携機構までご連絡ください。